

高校教員 アンケート

進路指導や大学選びに 認証評価結果は活用されるか？

大学の教育力を知る手がかりとして期待される「新たな評価」制度。高校教員はこの制度をどう受け止め、どのような活用を考えているのか。編集部が実施したアンケート結果から探る。

認証評価の認知度は3割だが「新たな評価」への期待度は高い

文科省の「新たな評価の在り方ワーキンググループ」で課題として挙げた「進路選択における認証評価結果の活用」。高校教員への編集部調査*で、その実態が明らかになった。認証評価制度そのものについての認知については、「あまり+まったく知らない」高校教員が7割弱に上る【図表1】。一方で、「進路指導に活用した」教員は2.9%に過ぎなかった。

「新たな評価」制度については、高校教員はどの程度、期待するのか。簡単に特徴を示し、11段階評価で聞いたところ、最も多かった回答は「7」だった【図表2】。一定の期待感があることがうかがえる一方で、4以下の低い評価を付けた教員も約2割いる。制度の意義や活用メリットを周知していく必要があるだろう。

【図表3】は「新たな評価」を進路指導にどのように活用できるかを自由記述で聞き、その結果をまとめたものだ。偏差値以外に

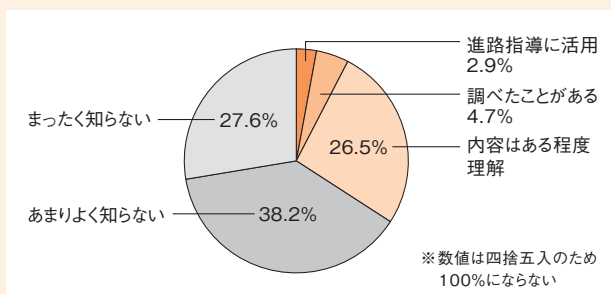
大学を判断する材料として取り入れることを考えている高校教員が多いようだ。学部教育力を、生徒に調べさせて同一学部の比較に使うほか、目が向きにくい地方大学を勧められると答えた高校教員もいた。

自学の教育力をアピールする武器になり得るか

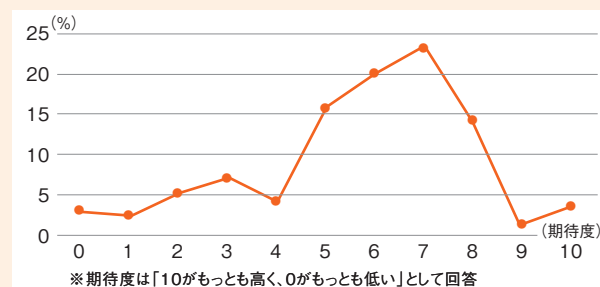
高校教員は大学の教育力を何で判断しているのかを聞いた結果が【図表4】だ。依然として「入試難易度（偏差値）」を挙げる高校教員は多いものの、「新たな評価」で問われる「カリキュラムの内容」は1位、「学生・卒業生の姿」は2位に入っている。ただし「新たな評価」で最も重視している「学生の成長度」については、10番目で高いとは言えない。

「新たな評価」の進路指導への活用については、文科省が自ら高校側に働きかける意向があるものの、本調査結果を見ると、国に任せきりにせず、大学自身による広報の強化は必須に違いない。

【図表1】大学の認証評価制度の認知度



【図表2】新たな評価に対する期待度



【図表3】「新たな評価」の進路指導への想定活用方法（抜粋）

■進路調べの材料

- ▶ 進学先選びの入り口として、傾向を見るために用いる。
- ▶ 認証評価制度について生徒に周知したうえで、ロングホームルームで実施する進路調べにて調べる項目の一つとする。
- ▶ 生徒が自身の興味関心に合致した大学を調べることが容易になり、それによって入学後のミスマッチが軽減される。

■志望校選び・進学先選択の参考材料

- ▶ 大学名ではなく学部の評価での判断がしやすくなるため、生徒自身での大学・学部選びがしやすくなると考えられる。
- ▶ 客観的なデータとして、志望校選定のための材料として取り入れる。

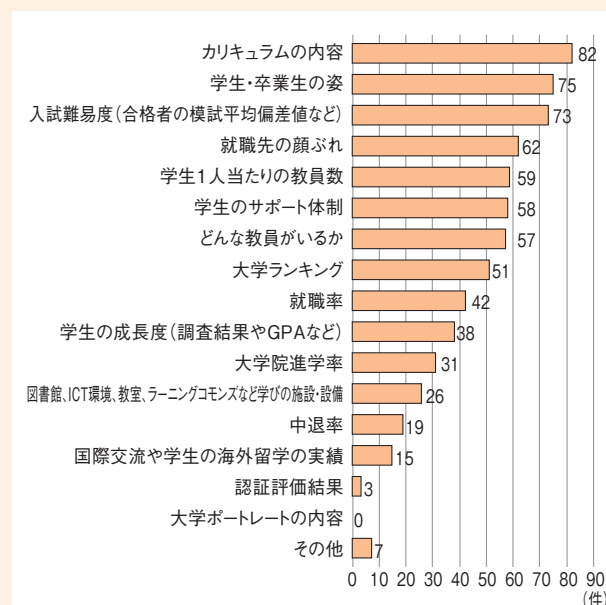
■偏差値やランキング以外の評価指標

- ▶ 大学の中で特に力を入れている学部が具体的にわかる。偏差値以外の指標として示すことができる。
- ▶ 偏差値だけでなく、新たなランキング（指標）として、生徒に紹介して大学の力を考えさせるツールにする。
- ▶ 同等レベルの大学があったときにどちらにするかの判断の一つに使える。
- ▶ 私大進学先の検討において同一学部で客観的に比較することができる。

■進路指導方法にプラスになる

- ▶ 進学先決定の検討材料の一つとして見ることを生徒・保護者に情報提供する。
- ▶ 生徒たちとの面談の指標となる。
- ▶ 生徒・保護者の目が向きにくい、地方大学を勧める際のポイントになる。
- ▶ 評価の高い大学を選択するように促す。

【図表4】大学の教育力の判断基準（複数回答）



* Between編集部による高校教員アンケート。調査方法: インターネット調査、調査対象: 全国の国公立高校（進学校）、調査期間: 2026年8月6日～8月18日、有効回答数: 170件

★この調査結果の詳細は電子ブックにて公開しています。